



フォペル地球儀

直径 28 cm

全容高さ 34.5 cm

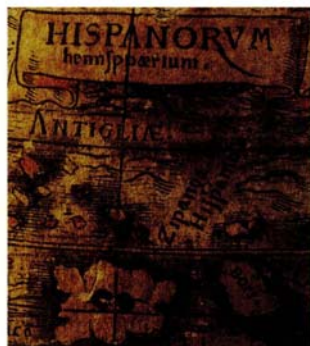
ケルン 1536 年

人類は、いつ地球が丸いことに気づいたのだろうか。

古代ギリシアのピタゴラス学派の哲学者たちは、物体の完全な形が球体だとすれば、宇宙の中心にあるこの大地も必ず太陽や月のように球体であらうと想像していた。

哲学者アリストテレス（紀元前三八四～三二二）は、月蝕のときの大地の影が円形であることや、エジプトで見える南方の星がギリシアでは見えないことから、大地が球体であることを証明している。

地球儀は、この世界観を形に現したものである。記録によれば、紀元前一五〇年頃、



小アジア・ベルガモンのストア学派の哲学者マロスのクラテスによって作られたと伝えられる。現存最古の地球儀は、一四九二年のコロンブス第一回航海の年にドイツ人マルチン・ベハイムによって作られたものである。

掲出の地球儀は、ドイツ・ケルン近郊メデバッハの数学者フォペルが一五三六年に製

作したものの。彼の地球儀としては最も古いもので、厚紙製の直径二八センチメートルの中空の球体に木版印刷した一二枚の舟底型紙片を貼り付けている。海は青色、陸地は桃色、山脈は黄緑色、主要な都市や港、赤道などは金を使いあざやかに彩色されていた。

北アメリカとアジアは、つながった一つの大陸として描かれており、日本は現在の西インド諸島に浮かぶイスパニョーラ島に「Zipanga」と記されるなど、コロンブス新世界発見頃の名残をとどめたものである。

（天理図書館 神崎順一）

天理図書館のお知らせ Tel:0743-63-9200 <http://www.tcl.gr.jp/>
 平日（午前9時～午後5時半） 土・日・祝（午前9時～午後4時半）
 ただし5月3～5日、31日は休み
 （本欄にて紹介した名品の閲覧は別途申込が必要です）